

防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業報告書【防災に関すること】

学校名「阿蘇市立一の宮小学校」

住所：熊本県阿蘇市一の宮町宮地1680番地

電話：0967-22-0113

I 学校の基本情報

- 児童・生徒数：458人
(通常13学級、特別支援6学級)
- 職員数：43人
- 平成28年4月1日開校
- 過去の主な災害
 - 【H24. 7 九州北部豪雨】
21名の方が亡くなられた(阿蘇市)。家屋が土砂で押し流されたり、水没したりした。
 - 【H28. 4 熊本地震】
開校して1週間目に地震が発生し、学校は5月14日まで避難所となった。最大約2000名の方が避難していた。
 - 【H28. 10 阿蘇中岳爆発的噴火】
噴石と火山灰が降り、降灰除去作業に追われた。

II 取組の概要

1 安全教育手法の開発・普及

(1) 防災教育に関する指導計画

期日	具体的な内容
4/18	○熊本地震による学校臨時休業
5/ 9	○学校再開日 避難経路の確認
30	○大雨による保護者への引き渡し訓練
7/27	○防災リーダー任命式
6~7月	○4年「地震からくらしを守る」
7~9月	○6年「復興リーフレットを作ろう」
8/ 9	○炊き出し訓練、救急処置講習会
17~19	○防災リーダー先進地視察研修 (宮城県)
9/16	○放送を聞く練習
29	○地震避難訓練1
10/11	○噴煙・噴石発生時の避難経路確認
12	○地震避難訓練2、防災に関する講演
22	○6年「復興リーフレット」配布
11/27	○先進地視察研修報告
29	○5年「防災頭巾」作成
12/ 1	○火災避難訓練
6	○防災・防犯家族会議
11・17	○モデル地区防災訓練
9~12月	○防災・防犯通信発行 ○安全パトロールステッカー配布 ○子ども110番の家の設置 ○防災・防犯に関する標語の作成 ○一の宮小防災・防犯カードの配布
1~3月	○防災・防犯通信発行 ○噴石・噴煙避難訓練 ○地震避難訓練3

(2) 緊急地震速報受信システム等を利用した避難訓練の実施

本校は一の宮中学校と隣接しており、小中合同の避難訓練を実施した。休み時間に児童・教職員がそれぞれの場所で、自分で判断・行動する力を身に付けることを目的に行った。



≪1次避難≫

震度5弱

を想定し、

小中一斉に緊急地震速報受信システムを発報。児童・教職員ともに机の下に身を隠したり、机等がない場所や運動場では中央部に集まり一次避難行動をとった。

≪2次避難≫

想定した被害箇所には被害状況を記した用紙を貼っておき、担当職員がそれを見付け、校長に報告。校長は被害箇所から避難場所(今回は体育館)を決定し、避難誘導のアナウンスを指示した。校内アナウンス後、児童・教職員は、安全な避難経路を考え、体育館へと向かった。ハンドマイク設置箇所の近くにいた教職員は、ハンドマイクを使って誘導しながら避難した。

人員点呼後、学校安全アドバイザーに児童の避難行動について、「児童は集中してアナウンスや先生方の指示を聞き、規律よく避難行動がとれていた。」と講評をいただいた。しかし、屋外から体育館へ避難する際に、校舎の壁に沿って避難していた児童がおり、壁から離れて通路の中央を通ることも意識する必要があるということも反省としてあがった。

ここでの反省をもとに、3学期には緊急地震速報受信システムを利用し、児童・教

職員に告知なしの避難訓練を実施した。

(3) 地域、関係機関等との連携を図った防災教育の推進

ア 4年「地震からくらしを守る学習」

社会科の学習の中で、防災マップを作成した。2学級合同で行い、自分達が住む地区ごとに分かれ、フィールドワークし、危険箇所等を写真に撮ったり、メモをとったりしていった。地域や保護者の方にも協力いただきながらまとめていき、計18枚の防災マップが完成した。

作成をとおして、危険箇所を改めて認識することができた。また防災家族会議にも活用し、防災に対する意識を高めることができた。出来上がった防災マップ

は、校内に掲示し、誰もが危険箇所等を把握できるようにした。



イ 5年「身を守るための防災頭巾作成」

地域の方をGTとして迎え、学級ごとに防災頭巾作りを行った。防災頭巾は、タオル3枚とリボンで手軽に作成でき、新聞紙をタオルの間に入れることで強度を増す工夫も行った。災害時にタオルをばらして包帯代わりにしたり、いろいろなものを拭いたりするために、ミシンではなく手縫いをするという話を聞き、「一つで何役にもなるこの頭巾を作ってよかった。」と5年児童も感想を述べていた。



ウ 6年「復興リーフレット作成」

校区にある商店街の被災状況、復興へ向けての取組や思いを知る学習を2学

級合同で行った。13店舗を1グループ6~7名で担当し、質問内容等を事前に検討した後、聞き取りを行った。そして、商店街を活気づけるようと聞き取ったことをもとに、リーフレットを作成した。

リーフレットの地図には、観光客の方が安心するようにと、災害時の避難場所を明記した。店主の方々も出来上がったリーフレットを見て、とても喜ばれていた。完成したリーフレットは、修学旅行先の長崎のホテルに置かせていただいた。



エ 大雨による保護者への引き渡し訓練

校区を3つに分け、20分ずつずらし、引き渡しを行った。駐車場、体育館内もすべて一方通行とし、混乱なくスムーズな導線を確認できた。ただ、中学校と校門を共有しているため、実際は車の出入りの混雑が予想される。今後、誘導係を増員する必要性などが課題としてあがった。

オ 炊き出し訓練、救急処置講習会

阿蘇市婦人会の方の指導の下、ハイゼックス米を使っ



ての炊き出し訓練を行った。汚れた水でも炊くことが可能であり、数日間はおつため、災害時には有効である。さらに、日赤の方によるAEDを使った心肺蘇生法と三角巾の使い方

の講習を受けた。児童生徒にとって、初めて経験することばかりだったが、高い関心をもって取り組むことができた。

カ モデル地区防災訓練

自主防災組織モデル地区を4地区設定し、中学校が事務局となり、避難訓練を実施した。多くの参加者があり、防災に対する関心の高さが伺えた。要援護者を誰が援護するのか、人員確認は誰がするのか等を事前に確認した。区長や消防団が連携しリーダーシップをとったことで、避難行動がスムーズに進んだ。反省点として、①人員確認のための名簿が必要②道路状況が悪い場合に備え、メガホン等を準備する③車の誘導係が必要④非常時持ち出しを持参する⑤ヘルメットや厚手の帽子等頭部を守るものが必要等が挙げられた。今後の避難行動につながるよい反省材料となった。

キ 防災・防犯家族会議、カードの作成



登下校中、緊急時にどこに避難すればよいのか、誰に連絡をとったらよいのか等を家族で話し合う機会をもった。「家に近ければ家へ・学校に近ければ学校へ」を基本とし、学校から自宅までの地図をもとに、危険箇所を家族で話し合った。

また、このカードには、災害時の避難所でのマナーや非常時持ち出しチェック、暖をとる方法、救急法等を記載し、災害時に役立てられるようにした。

2 災害ボランティア体験活動の推進・支援

5名の防災リーダー（5・6年）は、宮城県の高屋小学校、雄勝ローズファクトリーガーデン、雄勝小跡地、大川小跡地を視察した。2名の先生方の講話や実際に避難経路等を歩くことを通して、避難所の様子や震災時の避難行動等について学ぶことができた。熊本地震を経験した自分達と重

ねながら、被災された方々の思いも考えることができた。

本校では、防災・防犯のテーマを「一人一人の防災・防犯能力を高める」としている。このテーマにつながる内容を見聞きできたことは、防災リーダーの児童にとって、とても有益なものとなった。

避難所での生活の様子や、被災して11日目に入浴できたこと、1日食パン6分の1の食事が続いた話等を自分たちの経験と重ね合わせながら聞くことができ、改めて宮城県の被災状況の大きさに驚いていた。また、知り得た情報をもとに判断し行動する力を身につけていくことの大切さについても学ぶことができた。

雄勝小の児童達が避難した経路を同じようにたどっていったが、まさかこんな高台まで津波が押し寄せてくるとは想像し難かった。「大津波警報10m」と発令された時、津波10mを正しくイメージできなかつたそう。津波警報10mとは平均値であり、場所によっては全く異なる。津波は地形によって高さが変わり、特に、入りくんだ所やV字型の地形では、どんどん勢いが増し、高さもパワーも何倍にもなるということも学んだ。



先生方が、「他人事ではなく、自分事としてとらえることが大事である。」ということを話された。自然災害は、いつ、どこで起きるか分からない。だからこそ、自分事としてとらえ、防災についての備えをしておくことの必要性を痛感した。今回見聞きしたことを自分事としてとらえ、防災のみならず、様々な場面でこ

のことを生かして
いきたい旨を感想
に書いていた。こ
の学びを学習発
表会で全校児
童・保護者に向けて報告を行った。また、
毎月、防災・防犯通信に視察研修の感想を
掲載し、共有を図った。



3 学校安全（防災）アドバイザーの活用



日本防災士会
熊本県支部に学
校安全アドバイ
ザーとして携わ
っていただいた。

前述した小中合同避難訓練では、児童や教
職員の避難行動について指導講評をいただ
いた。その後の防災講演会では、防災士の被
災地での活動についても学習することができ
た。児童・生徒だけでなく、各地区の区長
にも出席いただき、地域協働で防災に取り組
む意識を高めることができた。

また、アドバイザーと打ち合わせ等を行う



中で、教職員自
身が日頃から防
災意識を高めて
おくことが大事
という助言を受

けた。

また、安全確保のために、児童は必ず上靴
を履くとともに、教職員も靴を履いておく必
要性についても指導をいただいた。その後、
運動靴を着用する教職員が増え、教職員の防
災意識の変容にもつながった。

III 取組の成果と課題

1 安全教育手法の開発・普及

(1) 成果

一連の活動を通して、児童の避難行動に
変化が見られた。放送が流れたら話をしな
い、立ち止まって聞くという習慣が身に付
いてきた。また、揺れを感じたら身を守る

姿勢をとる等の行動が迅速にできるようにな
った。

(2) 課題

災害から期日が経つと危機意識も低く
なり、上靴を履かずに過ごす児童も出てき
ている。災害はいつ・どこで起きるかわか
らず、そのための備えをしておく危機意識
を持続させる工夫を行っていく必要がある。

2 災害ボランティア体験活動の推進・支援

(1) 成果

視察研修で学んだことや学校での活動
等を防災・防犯通信を通し継続して発信し
ていくことで、他児童や保護者への啓発と
なった。学習発表会での視察研修報告も、
被災地の今の様子が詳細に分かったと感
想をいただいた。また、教職員に視察研修
の復講を行ったことで、防災教育に対する
意識が高まった。

(2) 課題

小学生という発達段階から、今現在災害
ボランティア活動に参加する機会は少な
いと思うが、何らかの形で貢献したいとい
う思いを持つことができた。来年度も関連
する活動に取り組んでいきたい。

3 学校安全（防災）アドバイザーの活用

(1) 成果

専門的なアドバイスは、教職員の防災に
対する意識改革につながった。例えば、地
震が発生した後には、必ず津波情報を得る
よう心がけることをご指導いただいた。阿
蘇在住だから津波は無関係と思わず、どこ
にいても地震後の発災を意識していくこ
とが大事であり、そのことが一人一人の防
災力を高めることにつながると感じた。

(2) 課題

避難訓練の様子を見ていただいたが、児
童・教職員に対し指導するポイントを事前
に綿密に打ち合わせしておく必要があっ
た。

防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業報告書【防犯を含む生活上の安全に関すること】

学校名「阿蘇市立一の宮小学校」

住所：阿蘇市一の宮町宮地1680番地

電話：0967-22-0113

I 取組の概要

1 安全教育手法の開発・普及

(1) 登下校を含めた学校の安全確保に関する指導計画

期日	具体的な内容
4～3月	○地域・保護者による見守り ○一斉下校での交通安全・防犯に関する指導
10/24	○防犯教室
12/6	○防災・防犯家族会議
9～12月	○防災・防犯通信発行 ○安全パトロールステッカー配布 ○子ども110番の家の設置 ○防犯に関する標語の作成 ○一の宮小防災・防犯カードの配布
1～3月	○防災・防犯通信発行 ○不審者対応避難訓練

(2) 登下校時を含めた日常的な学校の安全を確保する指導方法の工夫

ア 一斉下校での交通安全・防犯に関する指導

全学年が一斉に終業する日は、一斉下校としている。安全担当から、登下校についての注意点や危険箇所等についての指導を行っている。また、一斉下校以外の日は、学年ごとの集団下校としており、一人で下校することがないようにしている。

イ 低学年向け防犯教室

1～3年生を対象に、警察の方や学校安全アドバイザーの方を講師に迎え、防犯教室を実施した。防犯に関するDVDを視聴した後、ロールプレイを行った。まず、不審者とはどんな人なのかを考えた。不審者らしい不審者はあまりおらず、普通の格好をした人の中に不審者が潜ん

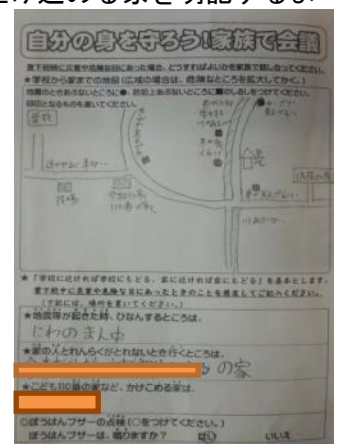
でいることを児童たちは理解することができた。次のロールプレイでは、代表児童が大きな声を出し誘いを断ることができた。しかし、不審者との距離が近すぎ、緊張のあまりその場から離れたり、防犯ブザーを鳴らしたりする児童はいなかった。指導講評いただいた、不審者に会った場合の対処の仕方（①大声を出して助けを求める②防犯ブザーを鳴らす③人・車から最低1m半は距離をとる④複数で登下校する）を再度各担任が指導を行った。



ウ 防災・防犯家族会議、カードの作成

防災と併せ、防犯について家族で話し合う機会をもった。登下校中に危険な目に会った場合を想定して、地図に危険箇所を記入するようにした。また、子ども110番の家がどこにあるのかを確認する上でも、駆け込める家を明記するようにした。

家族会議をしたことにより、学校～自宅間に、一軒も110番の家がない地区があることがわかった。早速PTAの地域委員に連絡を入れてもらい、設置することになった。一方、「自



分達が思っていた以上に設置箇所が多く、安心した。」という声も聞かれた。



2 登下校時を含めた日常的な学校の安全を確保するシステムの構築

(1) 子ども見守り支援事業、PTAの活用

地域学校安全指導員の方が、登下校中の通学路のパトロールや通学路の点検を常時行っている。また、校区内の危険箇所や不審者情報等の情報提供もお願いしている。保護者も輪番制で、登校時の見守りを行い、安全確保に努めている。

地域の祭りへの補導については、PTAの生活環境委員に協力いただいている。

(2) 安全パトロールステッカー配布

防犯対策として、PTA役員の方々に「安全パトロール中」のステッカーを



車に貼っていただき、抑止効果をねらった。

(3) 「子ども110番の家」の設置

開校したばかりであるため、子ども110番の家の設置を改めて行う必要があった。児童の登下校中に災害が発生した場合や不審者に出会った場合に駆け込める所を校区内にできる限り多く設置するようPTAに働きかけた。そこで、PTAの地域委員の方々が各地区を回り、必要箇所を検討し、設置依頼をされた。

3 学校安全（事故防止）アドバイザー活用

本校には、学校安全アドバイザーを1名派遣いただいた。先述の防犯教室での講師として指導講評いただいた他、防犯に関するアンケート内容の修正や防災・防犯家族会議のカードの検討等について、的確なアドバイスをいただいた。また、防犯ブザーの点検項目を入れるように助言いただいた。

II 取組の成果と課題

1 安全教育手法の開発・普及

(1) 成果

防犯に関する取組を進める中で、児童たちが毎日防犯ベストや帽子を着用すること、防犯ブザーを携行すること等の意識が段々と高まってきた。

(2) 課題

登下校時だけでなく、帰宅後の遊びの時間にも不審者の目撃情報がある。その時に防犯ブザーを必ず携行する等、自分の身を守るための指導の徹底が必要である。

2 登下校時を含めた日常的な学校の安全を確保するシステムの構築

(1) 成果

本年度、校区内で本校児童に関わる不審者の事案が数件発生している。その際に、その保護者だけでなく、その事案を見聞きした保護者も情報を速やかに入れてもらっており、防犯に対する意識の高まりを感じた。

(2) 課題

今回、家族会議を通して、子ども110番の家の設置箇所に偏りがあることが分かった。今後は、さらにその設置箇所を増やし、児童たちが安心して過ごせる地域環境となるよう努めていきたい。

3 学校安全（事故防止）アドバイザー活用

(1) 成果

学校安全アドバイザーからの助言から、児童たちの不審者に対する固定概念を払拭することが必要であること、また、防犯ブザーをいざというときに使うことができるよう、日頃の点検の大切さを再確認することができた。

(2) 課題

未然防止につながる取組がなされていくためにも、学校安全アドバイザーによる専門的な内容について職員研修を行うことも必要であった。

防災教育(学校安全)年間指導計画

月	行事等	重点目標	指導事項	学級活動	管理	その他
4	交通教室 (歩行の仕方) (自転車点検) 歓迎遠足 避難訓練(全体)	○交通ルールを守ろう ○自転車に正しく乗ろう ○安全な遊具の使い方を考えよう ○火災・地震・不審者から身を守ろう	・新しい登校班での安全な登下校 ・自転車の安全な乗り方 ・避難経路の確認	交通ルール	安全点検 登下校の安全のきまり 通学路点検 自転車点検	春の交通安全運動
5	避難訓練(水害)水害時等のひきわたし プール点検(排水溝)	○雨の日の安全な登下校を考えよう	・学校外の安全	避難訓練	安全点検 水の事故に備える 避難経路の点検 プール点検	保護者への児童引き渡し訓練
6	集団宿泊教室 救急法講習 プール開き 避難訓練(地震)	○集団宿泊中の安全に気をつけよう ○水から身を守ろう ○心肺蘇生法を学ぼう ○安全なプールの入り方を考えよう ○室内では静かに歩こう	・集団宿泊教室時の安全(事前指導) ・水泳時の安全 ・梅雨時の室内での暮らし方		安全点検 プール使用のきまり	
7	防災リーダー任命式 夏季休業日	○防災について考えよう ○夏休みを安全に過ごそう	・被災地とは ・夏休みのくらし方	夏休みのくらし	安全点検	心肺蘇生法 夏休み前の安全指導
8	先進地視察研修 (代表児童)	○先進地から学ぼう	・被災地の様子		安全点検	秋の交通安全運動
9	運動会	○元気に、楽しい運動会を開こう ○交通ルールを、見直そう	・運動会の練習と安全 ・安全な登下校		運動場の点検	
10	修学旅行 見学旅行(1～4年) 避難訓練(地震) 防災教室(4～6年) 防犯教室(1～3年)	○修学旅行中の安全に気をつけよう ○見学するときの安全に気をつけよう ○危険を回避する力を身につけよう	・修学旅行時の安全 ・見学旅行時の安全 ・交通施設とその利用 ・避難訓練の実施	防災・防犯について	安全点検	
11	就学時健康診断 視察研修報告会	○安全に気をつけて、楽しく外で遊ぼう ○先進地の様子を知ろう	・外庭での安全な遊び方 ・冬の病気 ・災害時の様子		安全点検 新入生の確認	全国火災予防週間
12	避難訓練(火事) 持久走大会	○火事から身を守ろう ○体を鍛えよう	・避難訓練の実施 ・持久走大会の練習と安全 ・冬の生活と安全 ・冬休みのくらし方	避難訓練 冬休みのくらし	安全点検 避難経路の点検 防火設備の点検 ストーブの点検と設置	年末年始交通安全運動 冬休み前の安全指導
1	避難訓練(地震)	○冬の過ごし方を考えよう	・避難訓練の実施 ・積雪・凍結時の安全指導		安全点検 避難経路の点検	
2	新入学生体験入学 避難訓練(噴火)	○自分の命は自分で守ろう	・新登校班の確認	交通ルールについて	安全点検	
3		○1年間の反省をしよう	・1年間の反省 ・春休みのくらし方	春休みのくらし	安全点検 施設設備の総点検	春休み前の安全指導 年間総括

地震避難訓練計画

一の宮小学校防災教育担当

1 目的

- 地震時に対処するために必要な知識や行動力、判断力を身につけさせる。
- 指示によって、または自主的判断によって、早く安全に避難できるようにする。

2 日時

平成28年10月12日(水) (10:00~10:20)

※小中合同 ※高学年は3校時、中学校体育館にて防災教育についての講話

3 想定

休み時間中に、強い地震(震度5弱)が発生。児童はそれぞれの場所で、自分の身を守る体勢をとる。揺れがおさまった後、放送の指示(今回は校舎に被害ありと想定し運動場へ)にしたがい、運動場中央部へ避難する。担任等は、人員が揃っているか、けががないか等を確認し、校長へ報告する。

4 指導計画

時刻	内容(担当)	注意事項
朝の会までに	事前指導(各担任)	・地震の際の心構え、避難の仕方について話を聞く。休み時間発生想定のため、 <u>それぞれの場所での身の守り方や避難経路</u> を十分に指導しておく。
10:01	① 地震発生通告 緊急地震速報システム(教頭) 「警報音。まもなく強い揺れの地震がきます。(曖昧モード)」 ② 近くにいる児童に指示 「頭を守って。物が倒れてこないところにしゃがんで。」 (担任等)	・出入り口は開けておき、避難経路を確保する。 ・主要動が去るまで、落下物による被害から身を守らせる。児童には、「おちてこない、たおれてこない、うごいてこない場所」で自分の身体を守ることを指導しておく。 ・カーテンを閉める。(ガラス飛散によるけがを防ぐ。) ・電源等の火災発生源になるようなものは全て消す。
10:02	③ 安全確認(担任外)	・担任外職員は、担当箇所の安全確認をし、校長に報告する。
10:05	④ 避難指示(放送)(主幹教諭) 「ただいま地震がおさまっています。児童のみなさんは運動場に避難してください。」	・校長が避難の指示を出す。「校舎の〇〇に被害がでたので、運動場へ避難するように。」 ・拡声器が近くにあった場合、拡声器も持ち出す。
	⑤ 避難開始 運動場へ (雨天時は体育館へ行き、学年ごとに並ぶ。)	・担任等は、近くにいる児童を運動場へ誘導する。このとき、どこの経路を通らせるか判断し指示を出す。担任は児童とともに運動場へ行き、人員・けがの有無等の確認し、校長へ報告する。 ・担任外で自分の担当場所がある職員は、逃げ遅れた児童がいらないか確認に向かう。 ・校長が全学級の確認を終えた時点で、訓練終了となる。
10:10	⑥ 講評(学校安全アドバイザー)	・防災士の方から、今回の避難の様子や児童が気を付けること等を話していただく。
10:20	⑦ 終了	・低学年は教室へ、高学年は中学校体育館へ移動する。 (高学年は履き替えず、上靴のまま)

5 役割分担

本部	校長		・避難の統括
通報連絡	教頭、主幹教諭		・消防機関への通報と関係機関への通知 ・児童誘導の放送
避難誘導	各担任、他職員4名		・避難した児童の誘導管理
救護	養護教諭、職員2名、給食2名		・避難した児童の救護
初期消火	担任外職員4名		・火災があった際の、初期消火
搬出	教務、事務、図書司書、担任外1名		・状況に応じ、必要なものの持ち出し
教室等の最終確認	1 F北東側(倉庫前、階段～職員玄関)	教頭	1 危険個所の把握(トイレ含む) ↓ 2 校長へ報告 → 4 避難時における児童の確認(トイレ含む)
	1 F北西側(児童昇降口～給食室)	給食A	
	1 F南東側(生活科、2の3～1の1、中庭)	主幹	
	1 F南西側(たんぼぼ4組以外、中庭)	職員A	
	体育館	給食B	
	保健室	養護教諭	
	前庭(低学年前)	職員B	
	2 F北東側(階段、パソコン～理科室)	理科専科	
	2 F北西側(更衣室～体育館側階段)	職員C	
	2 F南西側(4の2～トイレ)	教務	
	2 F南東側(図書室～5の1)	図書司書	
職員玄関、児童昇降口(外壁等)	事務	3 避難時、けがのないよう声かけ (東階段) 職員2名 ← (中央階段) 職員2名 (西階段) 職員2名	

6 避難場所

基本的には屋内避難だが、今回は校舎に損壊があったこととするため、**運動場中央へ**避難する。

(駐車場) 中学生 1 ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ 6 (プール)
年 年

※整列指示(安全担当: 拡声器)

7 避難経路

○今回、防災士の方が児童や職員の避難行動を見られ、ご指導されます。※つかんだ情報をもとに、どの避難経路を使い避難するか判断し行動する力が必要です。(児童も職員も)

アナウンスをしっかりと聞いて、行動できるように事前指導をしっかりと。

たとえば・・・①低学年の教室側がこわれています・・・→北側校舎から出る。

②中庭にガラスが落ちています・・・→どこからでもいいので、校舎から出る。

③体育館と校舎の間がこわれています。→そこから離れたところから出る。等、指導をしておく。

8 注意事項

いつ起きるかわからない事態に対処するための大事な訓練です。真剣に取り組むよう、指導の徹底をお願いします。

(児童に対して)

○毎日、上靴を必ず履かせておく。

○「おかしも」を指導しておく。

○どの場所においてもできるだけ「落ちてこない・倒れてこない」場所にしゃがみ、頭を守ることを徹底する。

○地震発生時に、自分がどこにいて、どこを通過して運動場まで避難するのかを考えさせておく。

●普段から、放送を注意深く聞く態度を育てる。

お	さない	・前の人を、押さない。(前の人が転ぶと将棋倒しのようになりやすい。) ・もし前の人転んだら、大きな声で『とまれ』とさけぶ。
か	けない	・教室、廊下、階段などで走らないで、急ぎ足で歩く。 ・広いところでたら、駆け足で避難する。
し	やべらない	・避難時、避難後とも話をしない。(先生の指示や、『とまれ』の声が聞こえない。避難後は、人員確認の障害になるとともに指示が聞き取れなくなる。)
も	どらない	・一度避難した後、または避難の途中等、絶対にひきかえさない。

(職員に対して)

○今回は児童が散らばっている状態を想定しているため、この場所なら運動場へどのように逃げるかを指導しておく。

○災害・緊急時に備え、職員もサンダル等脱げやすいものではなく、靴タイプのものを履くよう心がける。

○指導計画の③で、担任外職員で最終確認をすることになっている方は、担当場所に損壊場所があった場合、校長に報告をする。(損壊内容を書いた黄色画用紙を見つけてください。)

○担任は出席簿を持ち出す。全学年分の緊急連絡簿は手嶋がまとめて持ち出す。

9 その他

○防災士は、当日土足で校舎内を巡回する。実際にはガラス等危険物が飛散しているため。

平成28年5月10日

一の宮小学校保護者 様

阿蘇市立一の宮小学校
校長 宮本 哲也

緊急時の下校における児童引渡し訓練の実施について

新しい学校生活をスタートさせた直後に、この度の震災に遭い、不安な毎日を送られているかと思えます。お見舞い申し上げます。

さて、これから梅雨の時期に入っていきます。大雨等により、緊急下校となり、保護者の方による迎えが必要となる場合があります。そこで、保護者の方の迎えによる引き渡し訓練を実施したいと思います。お忙しい中申し訳ありませんが、子どもたちの安全確保のため、ご参加いただきますようご協力をお願いします。

1 期日

平成28年5月30日（月）午後

2 場所

一の宮小学校体育館

3 内容

保護者への児童引き渡しの仕方、地区連絡網の確認等

- ①安心安全メールと地区連絡網で、緊急下校に関する内容を配信
(12:00予定)

※迎えができない場合は、学校に電話連絡をする。【22-0113】
(迎えのない児童は、徒歩・学童・スクールバスで下校する。)

- ②車による迎え(15:30~16:30)
(各地区によって迎えの時間が異なる。)

※駐車場所、待機場所、出入口等につきましては、別紙にてご確認ください。

※今回は訓練ですので、当日迎えができないことがわかっている場合は、お子さんにも事前にお伝え願います。

※今回のメールが配信されなかった場合は、担任までお知らせください。よろしくお願います。

緊急時の児童の下校方法

豪雨・台風・豪雪に伴う緊急時の下校方法

通常の下校ができない緊急時の下校方法を降水量や警報発令の状況から判断し、以下の2パターンを設定する。

○ 職員引率のもとでの一斉下校

大雨警報等が発令されてはいるが、徒歩・スクールバスでの下校が可能と判断される場合、一斉下校で地区担当の職員が引率する。

○ 保護者の迎えによる引き渡し

大雨警報等が発令され降水量も多く、徒歩での下校が困難であり、スクールバス停から徒歩で帰宅できないと判断される場合、保護者の方等の迎えによる引き渡しを行う。

- 1 態度決定（下校方法、明日の始業時刻等）
関係機関へ連絡（教育委員会・PTA会長、各地区長、学童）→職員集合
- 2 職員の動き～保護者の迎えによる引き渡しの場合～

【職員室】

- 連絡黒板設置（職員室前廊下）・・・児童名簿を貼る。【主幹教諭】
- 安心安全メール配信【教頭】 ○地域委員長に電話連絡【教務】
- 電話受付、児童名簿転記・・・年組、氏名、地区名を聞く。（迎えに来られない、迎えが遅くなる等）【教頭、主幹、事務】
- 体育館設営【主幹、教務、職員】
 - ・地区名を貼った長机
 - ・集合場所掲示（保護者入口）
 - ・名簿（担当分）
 - ・首かけ地区プラカード&地区別児童名簿
 - ・インカム等
- 駐車場設営【職員2名】

【各担任】

- 児童の下校方法の確認（職員室前連絡黒板にて確認）、児童に連絡
- 下校後の注意（むやみに外出しない、溝や川に近づかない）
- 明日の登校の連絡
- 体育館での態度の指導
- 靴（持参の袋）と傘を持たせ、体育館へ移動

- 3 児童の動き～保護者への引き渡し

- ① 全児童は帰る用意を済ませ、靴や傘等を持ち、体育館へ集合する。
- ② 地区別に整列する。班長は地区カードを持っておく。（一斉下校時の並び方）
- ③ 安全担当からの話を聞く。
- ④ 保護者の迎えが来るのを待つ。
（3グループに分け、20分ずつ時間差を設ける。）
- ⑤ 保護者が迎えに来たら、下校する。

- ①西、古神1・2・3
- ②東、中通、町、北、荻の草
- ③分、古城、塩塚、坂梨

- 4 保護者の動き

- ①スクールバス前駐車場・体育館前駐車場（東側には置かない）に車を置き、体育館横（校舎と体育館の間）に待機する。
- ②入場制限（約20人ずつ）靴を持って児童のいるところへ行き、地区担当者がチェックした後、児童を連れて体育館玄関から出る。

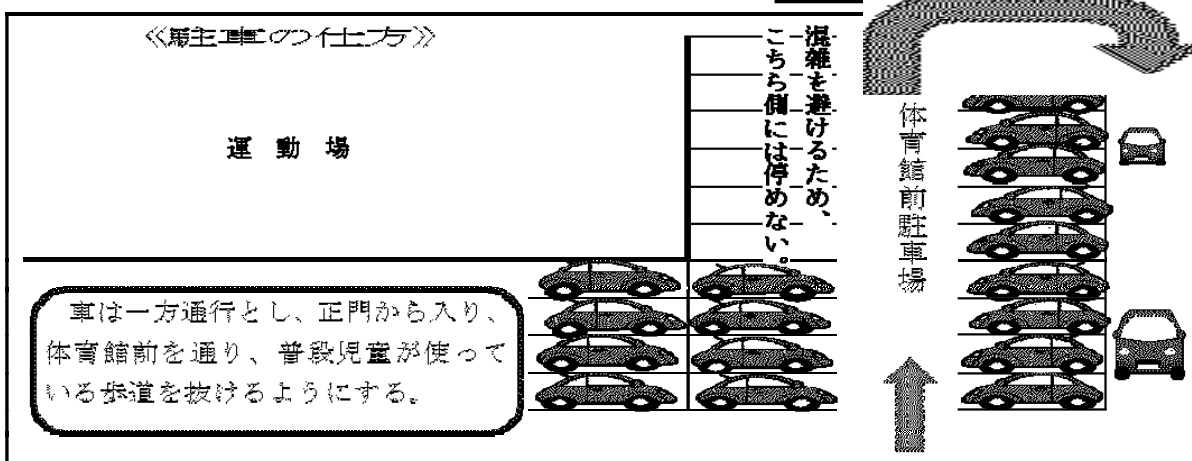
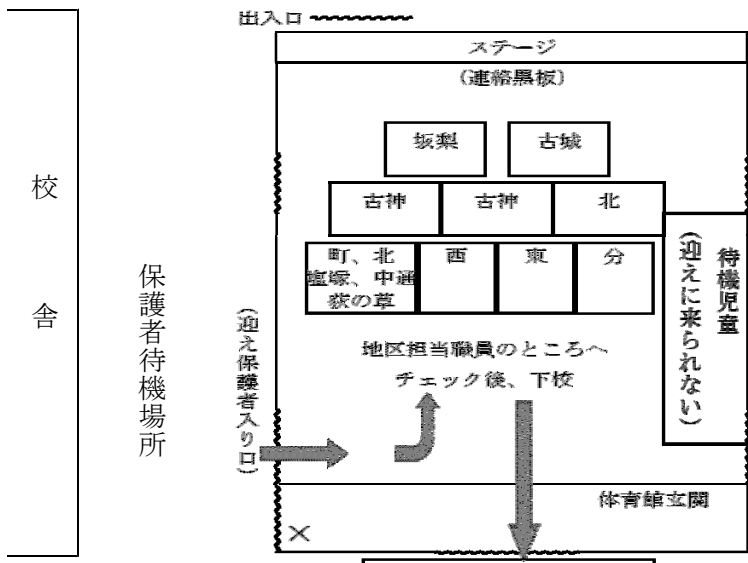
5 職員の役割

全体指揮	校長	関係機関との連絡調整、全体指揮(インカム1)
ヘルプ対応	教頭	動きが滞っているところの調整、ヘルプ(インカム2)
職員室電話対応	事務、給食2名	電話対応、体育館へ連絡(インカム3)
体育館内進行	安全担当	下校の進行、アナウンス(インカム4)
保護者調整・案内	主幹、職員	入場制限(20名程度ずつ)
駐車場	職員2名	駐車場での交通整理(インカム5・6)
待機児童	教務	基準時間(その都度変わる)までに、迎えに来られない児童の人員チェック、指導
地区児童指導 迎えチェック	地区担当	引き渡しの際のチェック→連絡黒板にまとめてチェック
	①西 古神	職員1名(職員2名) 職員6名(職員2名)
	②東 中通、町、北 荻の草	職員3名 職員3名
	③分 古城、塩塚、坂梨	職員2名(①西サポート)、職員1名(①西サポート) 職員2名 職員2名(①古神サポート)、職員1名(①古神サポート)
児童指導(担任)	特別支援学級担任2名(待機児童)、3名(保護者案内)、1名(駐車場) (担当児童が下校したら、他サポートに入る。)	

6 保護者の迎えの流れ

※車いす利用の児童～職員玄関前まで車で乗り入れ、東方向に抜ける。(駐車場係に、車の特徴、ナンバー等を伝えておく。)

※他、体調不良やけがをしている児童も同様。



「宮城県に行つて、どんなことを学んだか」

一の宮小学校 五年

私は、宮城県に行き、二人の先生のお話を聞いて、多くのことを学びました。まず、高屋小学校の荒明校長先生からお話を聞き、災害のおそろしさを改めて思い知らされました。その中で一番心に残ったことは、説明のスライドの中で車とデジタルカメラとを比べた記号が反対になっていたことです。二つをねだんからいくと、車の方が高いから不等号の大きい方がくると思いましたが、先生の説明を聞いて意味がわかりました。車はなくなっても、また買うことができるけれど、カメラに写した思い出はなくなってしまったら、二度ともどらないということでした。お金では買えないものがたくさんあり、命をはじめいろいろなもの大切さがわかりました。また、十日間もお風呂に入ることができなかったことも心に残りました。私も熊本地震にあり、お風呂に何日も入ることができなかったので、気持ちがとてもわかりました。

雄勝ファクトリーガーデンの徳水先生のお話では、奥に行けば行くほど津波の力が増し、水位が高くなることを教えていただきました。木の上に、水道のじゃ口やラジカセなどがあり、地面には貝がらやかわらがありました。こんな高いところまで津波がきたのだと思うと、ぞっとしました。

次に、大川小学校に行きました。ここは、児童七十四人、先生十人が亡くなったところです。私たちは、亡くなった人達がやすらかにねむることができるようにと、お花といのりをあげました。でも、いぞくの方は、みんながここにくるとをいやがられているということを知り、とてもつらい思いを今もされているのだと思いました。

資料の中に、徳水先生の教え子の女の子が書いた詩がありました。「豆ふ屋のおじちゃんみんなをひなんさせて、自分だけ津波に流されていったことを、わたしはぜったいにわすれない」という言葉があり、とても心に残りました。

私は宮城県に行つて考えたことが三つあります。

一つ目は、私達はいつも危険ととなりあわせということですが、自然はとても美しいものですが、「わいものにもなるので、気をぬいてはいけない」と思いました。いつ災害がきてもだいじょうぶなようにそなえておこうと思いました。

二つ目は、「他人事」ではなく、「自分事」で考えることです。地震前は、他の県で地震があつても自分とはあまり関係ないと思つていました。私が住む場所は大いじょうぶだなんて思つていた自分は考えがたりなかつたなあと思ひました。でも、地震があつたからこそ、このようなことを考えることができたとも思ひました。

三つ目は、自分にできることはないかということですが、もし、また地震が起きたら、ひなん所に行つてお年よりの方の話を聞いたり、小さい子の遊び相手になつたりしたいです。また、トイレそうじもしたいです。熊本地震の時、病気が広がつて大変だったひなん所もありました。一の宮小のひなん所でも、トイレそうじを先生方や中学生、ボランティアの人達がきちんと消毒をしてされていたそうです。だから、また地震がきたときには、私もトイレそうじや人のためになることをすすんでしようと思ひました。

この研修に参加して、いろいろなことを学んで、本当によかったと思ひました。

私は、熊本地震が起きた翌朝に、お父さんと水を集めるために、家中の水道のじゃ口をひねると、最後に出たのは、庭の水でした。トイレの水も流れてなく、あわてました。

インターネットで、被害の様子を見ていたら、親戚の家の前の道路が陥没してしまっていました。横に裏口があったのでよかったです。正面入り口からは入れませんでした。私は、地震の大きさを感じました。

私は、夏休みに、東日本大震災で被災した宮城に行きました。そこは、熊本地震よりとても大きな被害を受けていました。そこで、いろいろなことを学びました。

雄勝ファクトリーガーデンで、特に印象に残ったことは、私と同じ五年生の人が書いた「わたしはわすれない」という詩です。その中に、「わたしはわすれない 豆腐屋のおっちゃん皆をひ難させて、一人だけ津波に流されたこと」という言葉がありました。なぜなら、自分の命よりも、周りの人の命を優先させたことは、とても勇気のある行動だと思ったからです。私が大人になった時、また災害が起きたら、皆をひ難させられるような力と勇気を持つ人になりたいです。

次に、高屋小学校の荒明校長先生にお話を聞きました。その中で特に印象に残った言葉は、「先生、雑草が咲いたよ!」です。私は、それを聞いて、すぐにわけが分かりました。なぜなら、津波で危ない薬物が土に入っているかもしれないのに、雑草が生えてきてさぞうれしかったんだろうなと思います。私はその話を聞いてよかったですと思います。



私はこの研修に参加して、自分には関係のないことだと思ってはいけなと思います。「他人事」ではなく、「自分事」にしていかなければならないと、強く思いました。今回学んだことを一の宮小の皆に伝え、今度同じような災害が起きた時、自分達の命を守ることができるようになっていきたいです。

ぼくは、宮城で地震、津波について学びました。まず、高屋小学校で荒明きよし先生にうかがいました。きよし先生は、以前大曲小学校に勤めていて、そのとき地震があり、津波がきました。そして、電気も水もガスもないので風呂に入れず、十一日目やっとお湯をかぶることができたと話されています。ぼくも六日間くらい風呂に入られませんでした。だから、やっと風呂に入られた時は、とてもうれしかったです。たんだなと思いました。

また、周りの家のがれきから学校を守ったとも話されています。大曲小学校に津波が一メートル九十センチメートルもおしよせてきたそうです。その高さだと、ぼくはおぼれてしまいます。そんな中、きよし先生たちは小学校にひなんしてきた人たちの世話をしていました。ぼくは、熊本地震の時、自分のこととせいっぱいで、他のひなんしている人たちに何もできませんでした。ぼくがきよし先生の言葉で一番心に残っているのは、「震災の教訓から、宮城の学校では災害を前もってとらえて、前もって備える。そして、経験が一番、教育が一番。」という言葉でした。ぼくは、将来、先生になる夢をもっているのです、この言葉をいつまでも忘れないようにしたいと思いました。

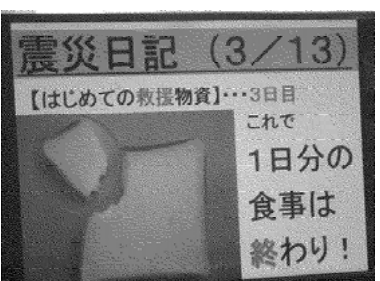
次に、ローズファクトリーガーデンで学んだことは、津波の恐ろしさについてでした。「津波けいほう十メートル」と発令されていたのですが、その意味を理解できなかった人たちが多くて、津波に流されていきました。そして、津波は地形でも変化します。雄勝では、実際には十メートルではなく、十六・三メートルの津波高に変化しました。だから、自分の地域の地形を理解することが大事だと思いました。雄勝小のみんなはふっこうに向け、いろいろなことをしていたので、ぼくも何か熊本の役に立つことをしようと思いました。例えば、仮設住宅に行って、ひさいした方たちとふれあうことができればいいなと思いました。

また、ぼくは、今後家族や友達に宮城で学んだことを伝えていき、これからどういう風に熊本の人たちに元気をあたえられるかななどを考えながら、取り組みようと思います。そして、また同じような災害が起きたら、宮城で学んだことをいかして、自分のできるかぎりのことをしようと思います。ぼくは、宮城でもいろいろなことを学ばせていただいたり、お世話になったりしたので、このことを一生忘れないと思います。



ぼくは、宮城県の研修で、震災のおそろしさを学びました。

まず、高屋小学校の荒明校長先生の話聞きました。その中で、一番印象に残っているのは、十日間もお風呂に入れなかったことです。熊本地震では、四日目に自衛隊が来てくれたので、ぼくはやっと入ることができました。とても気持ちよかったのを覚えています。他には、避難所生活での食事の量です。パン一枚の六分の一だけしか配給がなかったと話されていました。ぼくは、一の宮小に避難していて、食事は十分な量をとれていたのびっくりしました。ぼくと同じ小学生の子ども達がどんなにつらいめにあったのだろうと思います。



次に、雄勝ローズファクトリーガーデンを訪問しました。そこでは、津波のおそろしさを学びました。津波は、海から川へ流れて水の量が増えて、陸へどんどん水が押し寄せてくるということです。津波は来ないと安心してはいけない、いつか来るかもしれないということが分かりました。実際に、ぼくたちも山の方へ向かって、避難経路を歩いてみました。まず、高いところにある神社まで登りました。安心かと思ったら、どんどん水がきて、もっと上の山に登りました。神社から上には通り道などはなく、草をかきわけて急な坂を登りました。想像してみてください。たぶん、とても寒かったことでしょう。すべる坂をしんちように早く登る姿が目にかんできました。

ぼくは津波にあった子ども達の話聞いて、ぼくたちも負けてはいけないと思いました。どんなにつらいことであっても、負けずに自分たちで町の人々にえがおをおくっている姿を映像で見て、一日でも早く元にもどせるように、ぼくも何かできることがあったら、がんばりたいと思いました。

この学習で学んだことをみんなへ伝えて、今後災害にあった時は、一人でも多くの命を救ったり元気を与えたりできるように、今自分ができることをしっかりしたいと思いました。

防災教育で宮城県に行くという話を聞いて、震災後の宮城県はどうなっているのか知りたいと思い、希望しました。行くことが決まってしまうのは、どんなところか地図で調べました。行ってみると、思ったより遠く感じました。

熊本地震は、ねている時にゆねているのに気付いて目が覚めました。でも、それからどうやってベッドからおりたのか覚えていません。気付いたら、一階の柱時計がたおれていて、真っ暗で床を見ると何かが割れていたのに気付きました。また、ゆれ始めたので、家族と机の下にかくれました。ゆれがおさまって、祖父母も心配だったので、みんなで車に乗って祖父母の家に行きました。祖父母も大丈夫だったので、みんなで車の中でねました。最初はねむれなかったけど、気付いたらねていました。

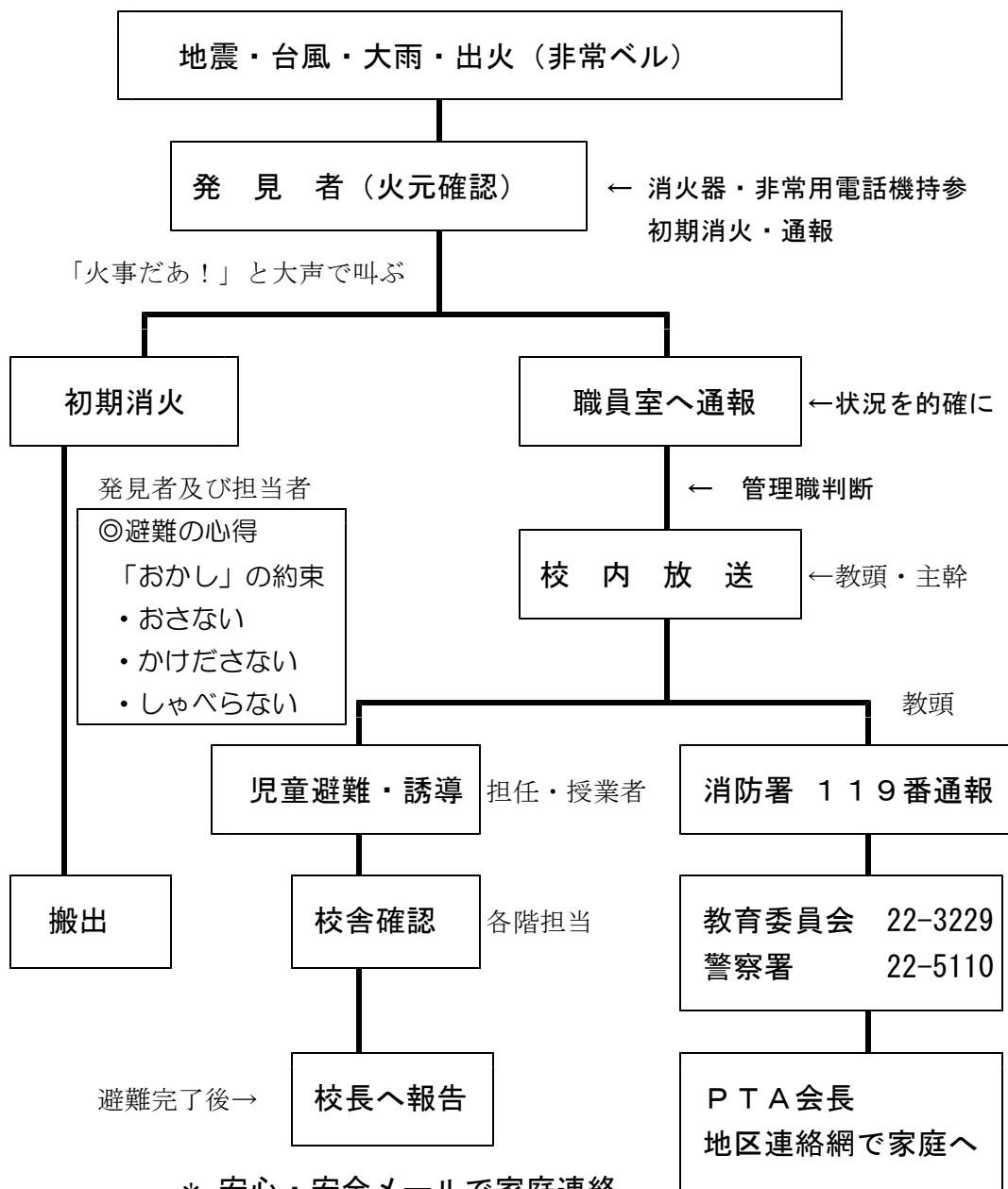
それから、毎日車で過ごしました。食事はいつも外で食べていました。学校も休みになったので、弟といつも遊びました。楽しかったけど、これがいつまで続くのかな、学校は大丈夫かなと思いました。

荒明校長先生のお話で、十日間もお風呂に入れなかったこと、食事がとても少なく、震災後三日目で、一日の一人分の食事が食パン一枚の六分の一と聞いて、ぼくみたいに遊んだり、家族でひ難生活ができなかったことを知りました。食事もおなかいっぱいにならない日がたくさん続いて、本当に大変だったろうなと思いました。

研修で学んだことは、大きな地震があったら、阿蘇には海はないけれど、津波にあうかもしれないということです。大人になってどこに住むかわかりません。津波は川を逆流して一回引くけれど、その後もっと大きな津波がきます。視察地の雄勝町を実際に歩いてみたとき、家や商店街があったところに何もなくて、遠くに港と海が見えました。震災から五年五ヶ月も経っているのに、町はコンクリートと草っ原が広がっていました。津波のこわさを改めて感じました。実際に行ってみて、雄勝町は周りが山で緑がたくさんあって、阿蘇に似ているなと思いました。

ぼくが一年生になる前の三月に東日本大震災が起きました。テレビのニュースで見たのを覚えています。五年後、十年後にまた宮城に行ってみたいと思います。この研修で学んだことを友達やたくさんの人に、一人一人が命を守ることができるよう伝えていきたいです。

自然災害及び火災時の緊急マニュアル



* 安心・安全メールで家庭連絡

* 安全確認後、担任確認のもと保護者へ引き渡す
(連絡がとれない場合は引き続き学校避難とする)

◇ 学校が地震や大雨等で「避難所」になった場合の分担

- 1 関係機関との連絡調整・・・校長、教頭
- 2 児童の被災状況確認・・・校長、教頭、各担任
- 3 物資調達・確保(水、電気、食料、寝具)・・・校長、教頭、主幹教諭
- 4 教室と避難所等の施設区分・・・校長、教頭

一の宮小学校防犯教室計画

防災教育担当

1 目的

○登下校時等において不審者等に出会った場合の対処の仕方を知り、児童自身に自らの身を守るための能力を身に付けさせる。

2 日時

平成28年10月24日（月）3校時 10：45～11：30

3 場所

一の宮小学校体育館

4 参加児童

1年－64名、2年－88名、3年－89名 合計241名

5 内容

(1) 開会

(2) 校長先生のお話（講師紹介も含む）

(3) DVD視聴（防犯）

(4) ロールプレイ

（○不審者とはどんな人？ ○不審者に出会った場合の対処の仕方等）

(5) 指導講評 阿蘇警察署刑事・生活安全課生活安全係

国立大学法人熊本大学教育学部 防犯アドバイザー

(6) 閉会

6 その他

○ロールプレイをする代表児童を各学級1名ずつ選んでおく。その児童は、ランドセルと帽子を持っていく。

○体育館での並び方は、講師と打ち合わせ後にお伝えする。

○防犯教室終了後、防犯アドバイザーから担当職員に対し、本校の取組等についてご指導いただく。（11：40～12：00）

平成28年度 不審者対策避難訓練計画

安全部

1 目的

- (1)不審者が校内に侵入したとき、児童が安全に避難できるように、避難方法や避難場所を確認すると共に、事件が起きたときの心得などについて理解させる。
- (2)児童の安全を確保するため教職員は不審者が侵入してきた場合の役割分担と対応を確認する。

2 期 日：平成29年1月24日（火） 3校時（行事）

3 訓練の想定：不審者が生活科室前渡り廊下から侵入した想定

4 避難場所 1次避難（臨時集会開始の放送で）・・・各教室（教室後方に移動して整列）
2次避難（避難できるタイミングをみて）・体育館

5 直前指導（10:45～10:50）【低学年は前日までに時間を取るなどしっかり指導】

- ①不審者が○階廊下にいた時には、教室を施錠し整列して静かにする。
- ②教室外にいた時に、どこへ避難するか？→近くの学級教室へ（トイレの場合は個室へ）
- ③運動場に不審者が侵入した場合は職員室へ逃げ込む
- ④「只今より臨時集会を始めます。なお南校舎1階は込み合っています。」と「臨時集会は終了しました。」の放送の理解

6 訓練の実際（10:50～11:10）

☆不審者【警察】：生活科室前渡り廊下より侵入

①第一発見者【職員A】：不審者に声掛け「何か御用ですか」→生活科室へ誘い込む

②通報者【職員B】：オレンジ色のボタンを押す

③校内放送【主幹教諭】

「校長先生、校長先生、生活科室までお願いします。」

④各教室は扉の鍵をかけて、教室後方に整列（廊下の状況に気を配る）
※原則的には不審者が警察に確保されるまで教室待機するが、教室に侵入してきた場合は

- 2階の場合、分散して逃げる
- 1階の場合、ベランダ側から体育館へ逃げる

④休み時間中に運動場へ不審者が侵入した場合
運動場の児童は職員室へ逃げ込む（職員室横の入り口なども活用）

④体育館に侵入してきた場合は、分散して近い出口から、外に逃げる。
（1年教室、職員室、中学校職員室）

④校長は警察通報と追い込みを指示
通報【教頭】警察→中学→市教委（訓練通報）
⑤「追い込み隊」現場へ出動
【教務、職員3名】（刺又等持参）
児童から引き離す方向へ追い込む
⑦パトカー誘導係は職員室のトランシーバーを取り正門付近へ【主幹】

⑧不審者が最初の場所から移動したら
逐次トランシーバーで場所を知らせる【教務】
⑨警察を不審者場所へ誘導【主幹】
⑩不審者を警察に引き渡したことをトランシーバーで知らせる【主幹】
⑪教頭は不審者が連行されたことを確認し放送する。
「臨時集会は終了しました。体育館へ集合してください。」（不審者がパトカーに乗ったことを意味する）

7 体育館での講話(11:10~11:30)

- ①警察職員紹介(安全担当)
- ②警察官から児童への講話10分
- ③校長あいさつ
- ④児童は教室へ移動(職員引率)
- ⑤警察官から職員対象の評価および講話(1階多目的ホール:10分間)

8 事後指導資料(屋外編)

- ①不審者に声をかけられたら→無視する
- ②追いかけられたり、捕まりそうになったりしたら→防犯ブザー・大声・近くに家に逃げ込む
- ③ランドセルを捕まれたら→ランドセルを下して逃げる

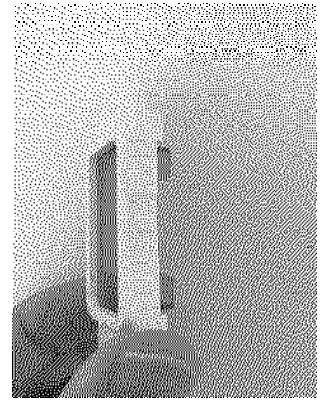
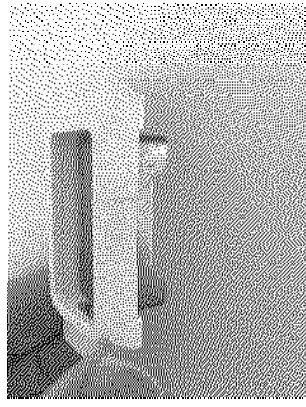
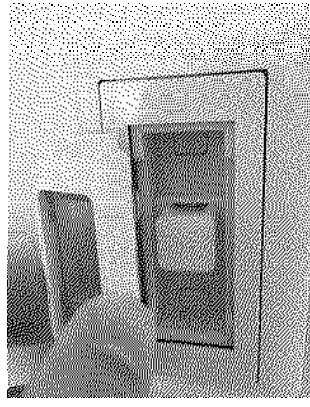
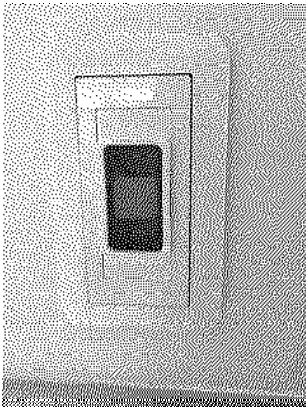
9 備考

緊急時に備え、トランシーバーを職員室に3台常置しておく。

(職員室・取り押さえ隊・パトカー誘導)

※体育館に不審者が侵入した場合は、不審者と反対側の複数出口から外へ出て走る。

10 非常ボタンのリセット方法



①ふたを空け、
ボタンを引っ張り出す

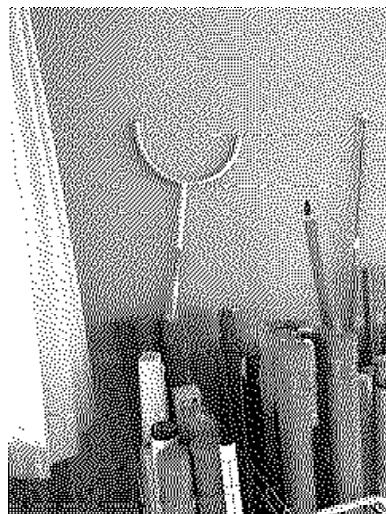
②オレンジ半透明
カバーが押し込まれた状態

③カバーを押し戻してはめ込む

11 刺股の保管場所は分かりにくい(日頃から把握を)



【3年少人数教室】



【2階多目的室】

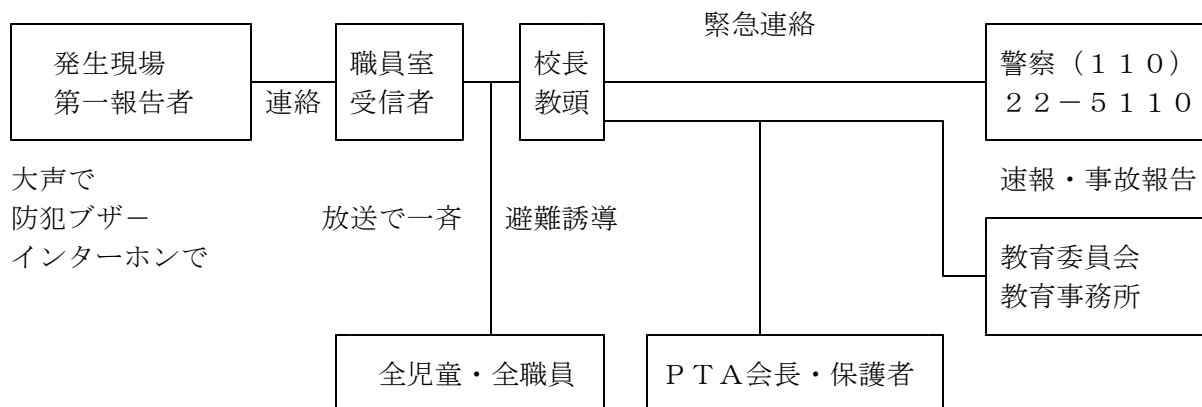


【パネルの放送連動は常時遮断】
※全校放送が鳴らないように

不審者の学校侵入への対応

(1) 来訪者の確認

- ① 学校への来訪者のための入り口や受付を明示し、外部からの人の出入りの確認を行う。
 - ・受付で来訪者は記名する。
 - ・保護者の届け物は受付で職員が預かる。
 - ・業者関係は職員が付き添う（工事関係の場合は、全職員に連絡する）。
- ② 校内で不審者（未確認者を含む）に気づいたら、職員は必ず声かけをする。
- ③ 職員室では職員が常時待機する。
- ④ 通報体制を確認する。



(2) 校内での安全確保の体制づくり

- ① 始業前は放課後を含めて教職員の役割分担を定める（児童の状況把握と安全確保）。
 - ・始業前・・・児童昇降口または校門で登校状況を確認する。
職員室から運動場側の来訪者を確認する。
 - ・授業(担任指導)中・・・通常通り来訪者を確認する。
 - ・休み時間・・・業間や昼休みは校内巡視をする。
 - ・放課後・・・児童昇降口または校門で下校状況を確認する。
- ② 施設面での安全確保に努める。
 - ・校舎内（教室・廊下等）の外側窓、出入り口は不在の時は施錠する。
 - ・危険物等を放置しない（用具の整理と危険物の撤去）。
- ③ 児童への非常時の対応の仕方（自分を守る対応の仕方や行動）を指導する。
- ④ 教職員の非常時の対応の仕方（児童を守る防備体制）の研究・検討をする。

(3) 学校開放時の安全確保

- ① 開放部分と非開放部分の区別を明確にする。
- ② P T Aや地域学校安全指導員による支援を依頼する。
 - ・授業参観や運動会等の学校公開の日には、出入り口で来訪者の確認と巡回を依頼する。

(4) 不審者情報に係る関係機関との連携

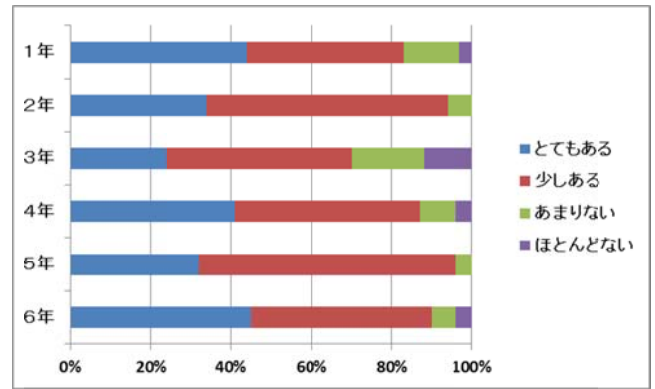
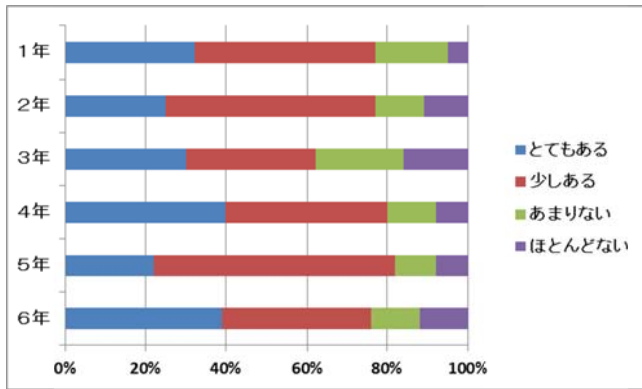
- ① 近接する学校間で随時情報を提供しあう。
- ② 警察との連携（定期的な巡回と情報提供）を図る。
- ③ 地域学校安全指導員による下校時の通学路の巡回を実施する。
- ④ 地域学校安全指導員、青少年健全育成市民会議、P T Aとの連携を図る。
 - ・各地区から情報を収集する。
 - ・不審者の情報があつた時は、地域へ通知し、校区内巡回と登下校時の同伴等の協力を依頼する。
 - ・登下校時に児童が緊急避難できる場所（子ども110番の家）を確保するとともに児童への連絡を確実にを行う。

防災アンケート(一の宮小学校)

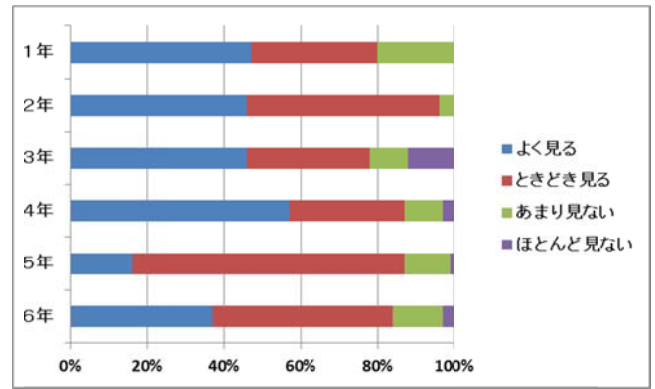
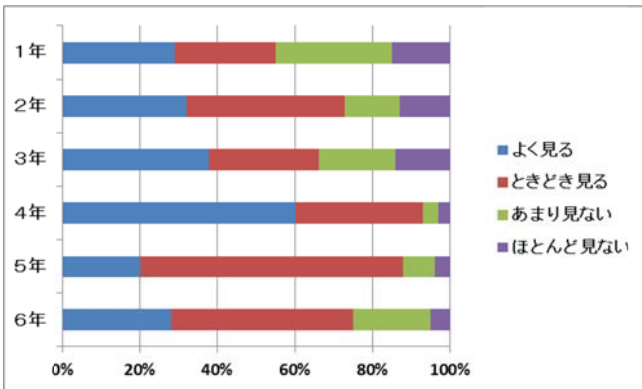
【9月】

【12月】

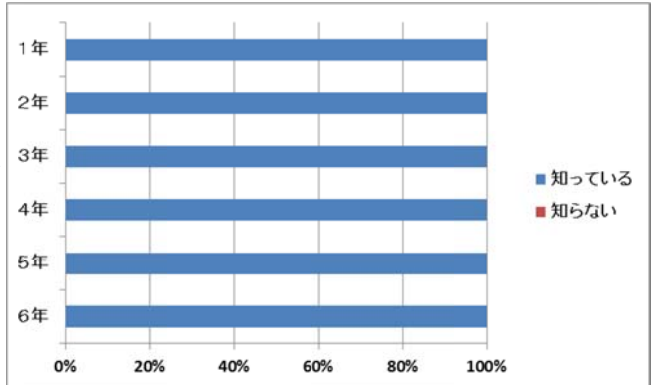
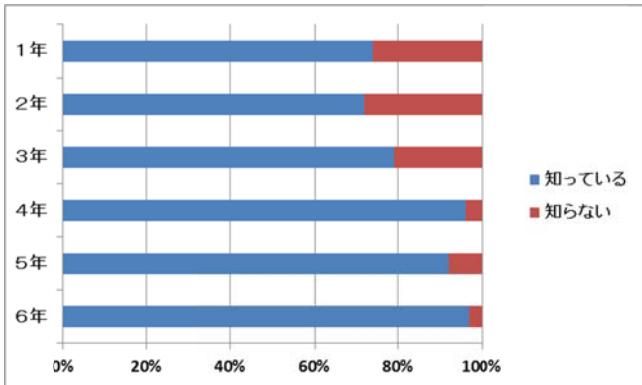
① 地震や水害などの自然災害について、関心がありますか。



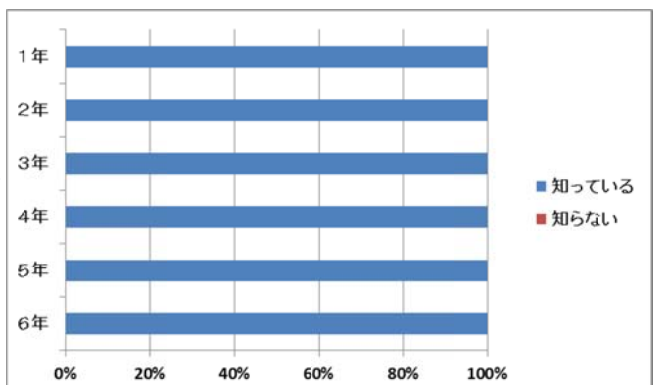
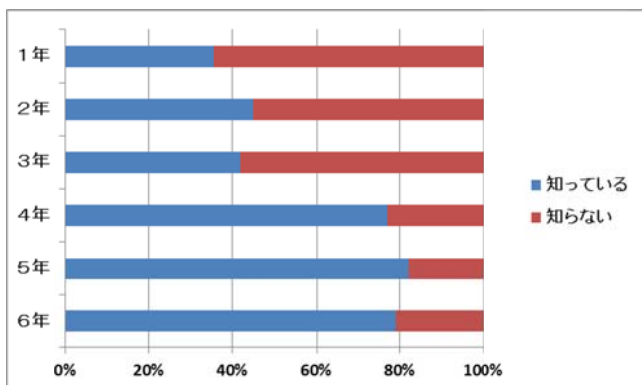
② 地震や水害などの自然災害に関するニュース・新聞などに関心をもって見ますか。



③-1 地震が起きた時に、自分の命を守る方法を知っていますか。(建物の中にいるとき)



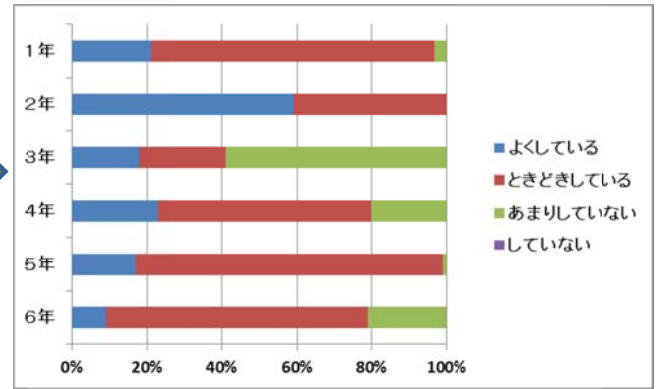
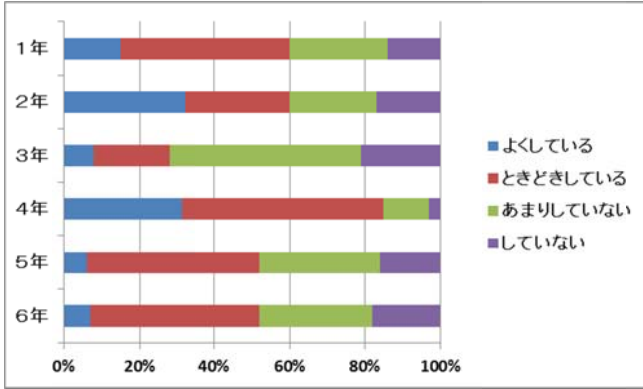
③-2 地震が起きた時に、自分の命を守る方法を知っていますか。(外にいるとき)



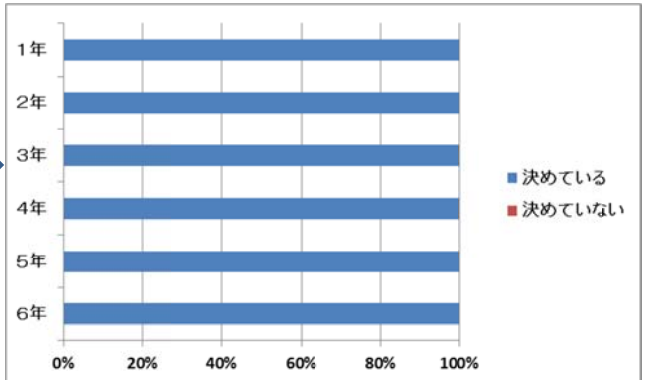
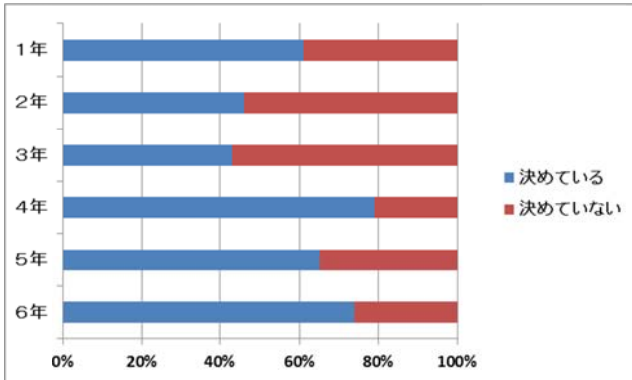
【9月】

【12月】

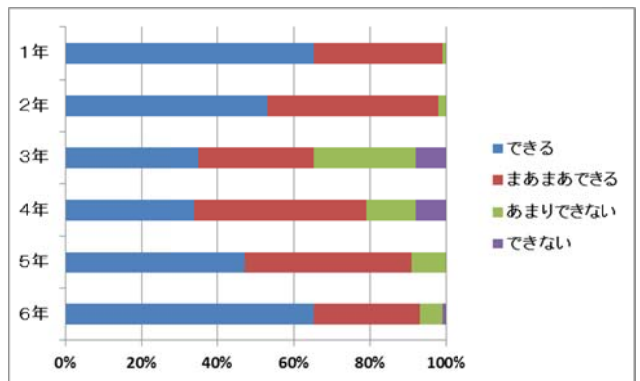
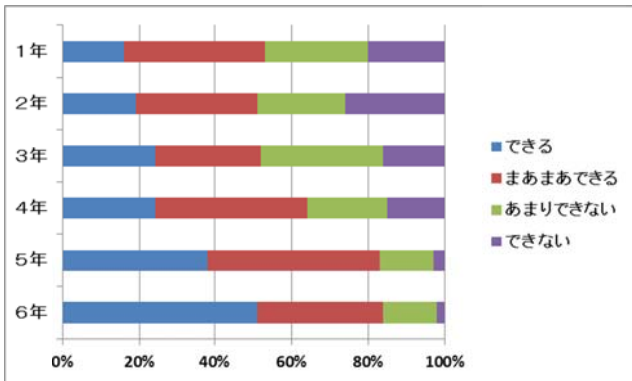
④ 地震や水害等が起きたときの対応などについて、家族で話し合いをしていますか。



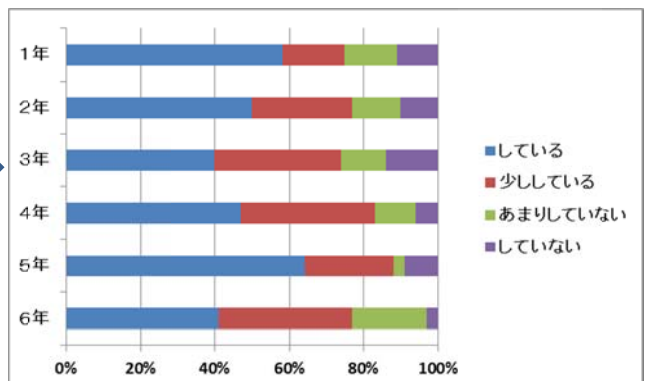
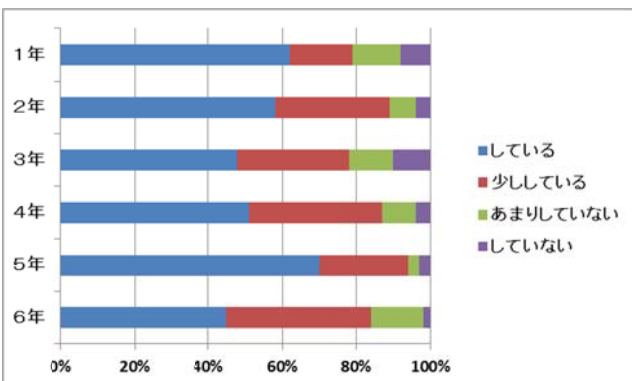
⑤ 地震があった場合の集合場所や連絡方法を家族で決めていきますか？



⑥ 登下校のときに、地震が起きたら、安全な場所に避難することができますか。



⑦ あなたの家は、地震に備えて食料・水などを用意していますか。

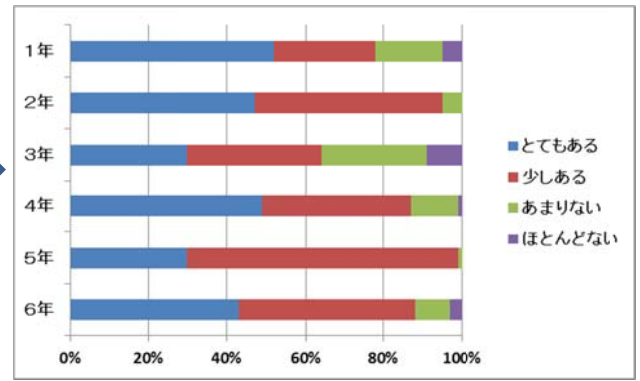
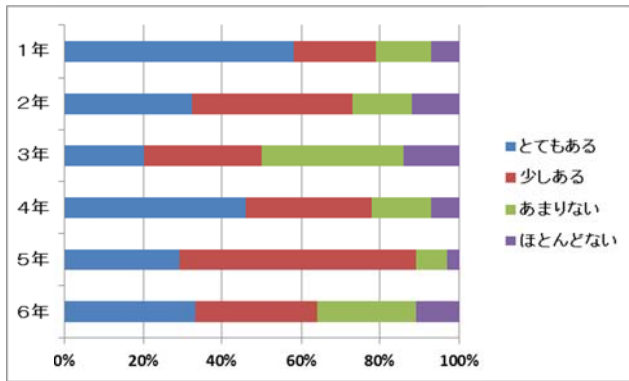


防犯アンケート（一の宮小学校）

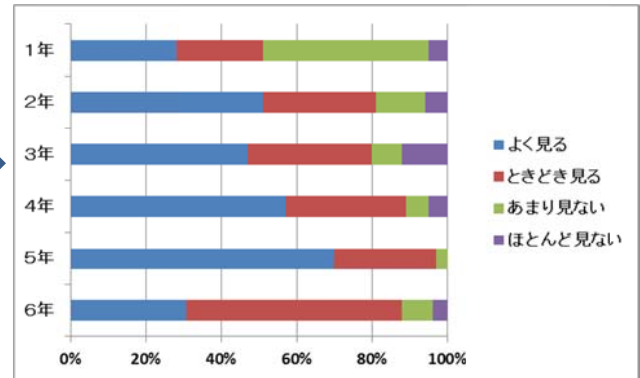
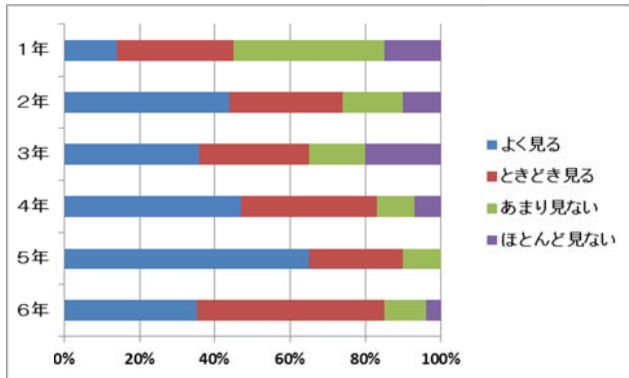
【9月】

【12月】

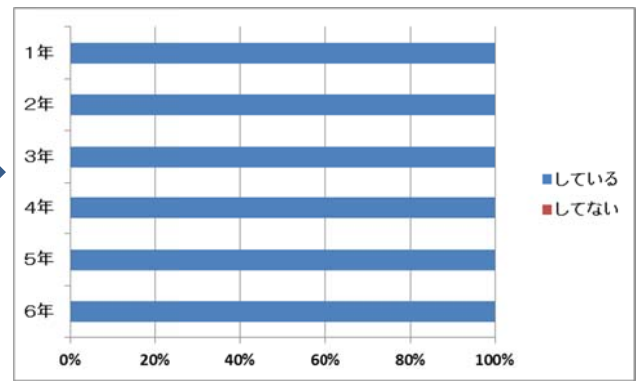
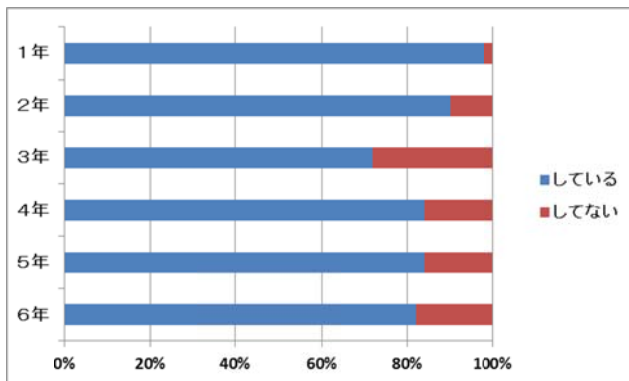
① 不審者に会ったらどうするかなど、防犯について、関心がありますか。



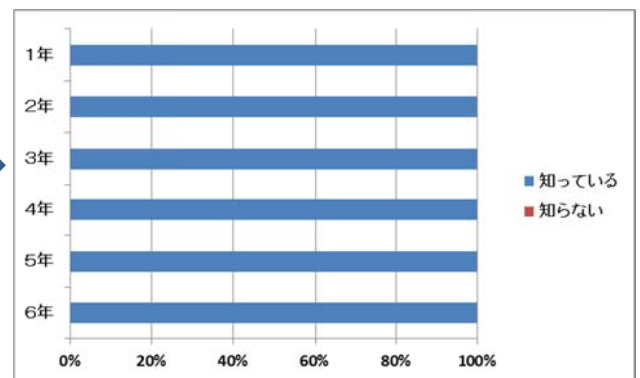
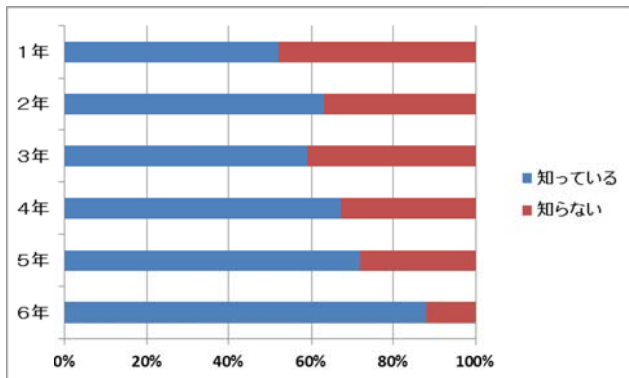
② 不審者、防犯に関するニュース・新聞などに関心をもって見ますか。



③ 不審者に会ってしまった時のために、何か準備をしていますか。



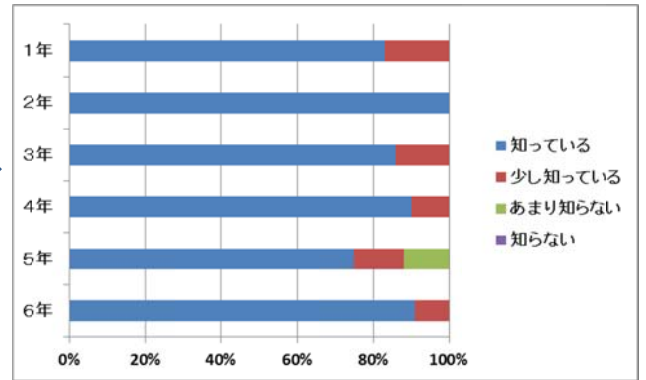
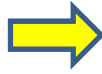
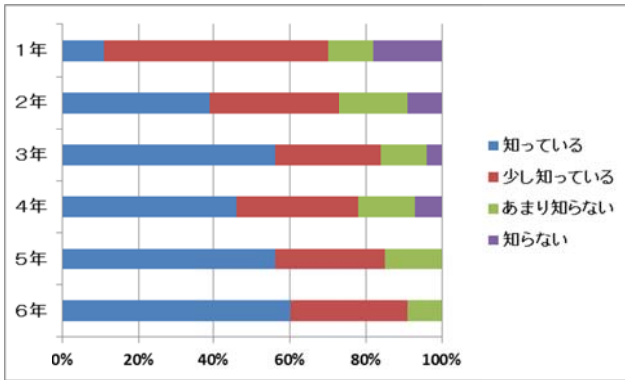
④ 一人で下校中、不審者に声をかけられた時に、自分の身を守る方法を知っていますか。



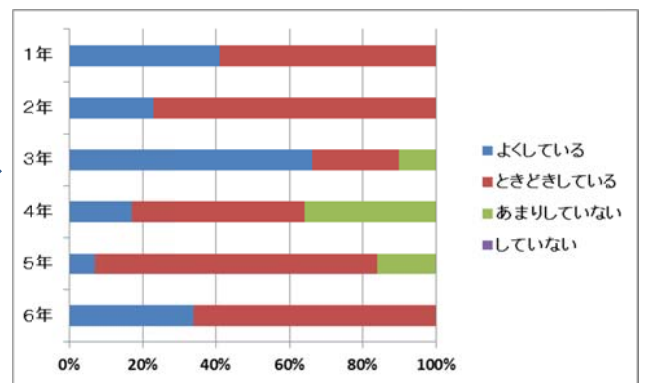
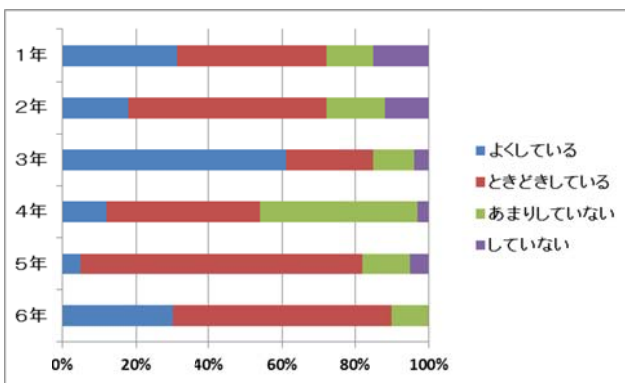
【9月】

【12月】

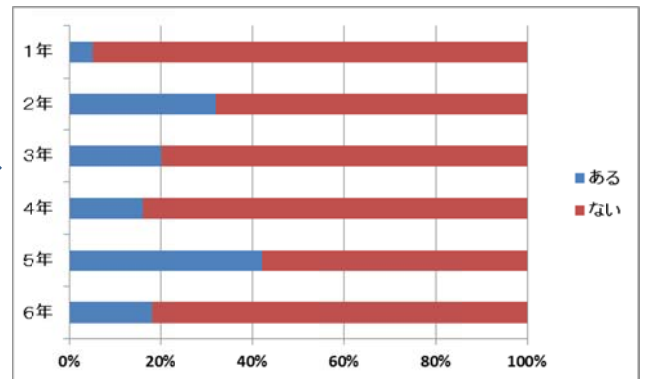
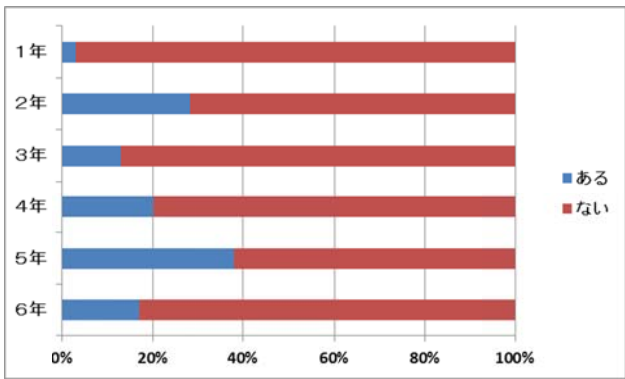
⑤ 「いかのおすし」のそれぞれの意味を知っていますか。



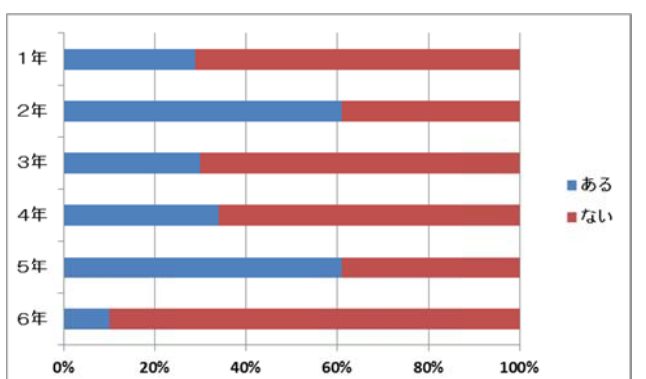
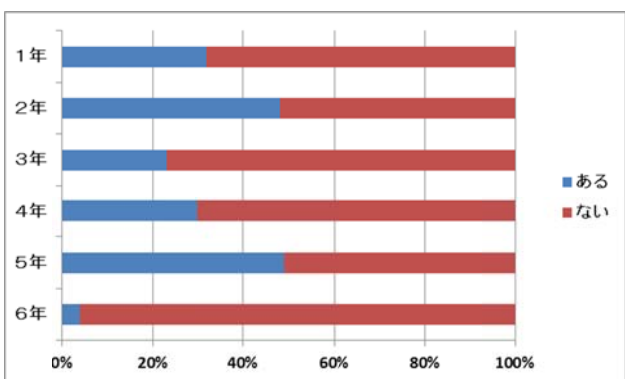
⑥ 不審者に会ったときの対応などについて、家族で話し合いをしていますか。



⑦ こわいめにあったことはありますか。(不審者、交通事故等)



⑧ 一人で帰っているときに、何か不安に感じることはありますか。(不審者等)



防災についてのアンケート（-の宮小学校 低学年） 9月

ねん くみ ばん なまえ

★あてはまるものに○をつけてください。

- ① 「じしんやおおあめ」があったらどうするかなど、いつもかんがえていますか。
ア) かんがえている イ) 少しかんがえている ウ) あまりかんがえていない
エ) かんがえていない
- ② 「じしんやおおあめ」についてのニュースがあったら、すすんでみますか。
ア) よくみる イ) ときどきみる ウ) あまりみない エ) ほとんどみない
- ③ じしんがおきたときに、どうすれば じぶんのいのちを まもることができるか、していますか。
○たてもののなかにいるとき ア) 知っている イ) しらない

「知っている」とこたえたひとにききます。じっさいに、どんなことをしますか。

- そとにいるとき ア) 知っている イ) しらない

「知っている」とこたえたひとにききます。じっさいに、どんなことをしますか。

- ④ じぶんのねているへやは あんぜんですか。 ア) あんぜん イ) あんぜんではない
そうおもう りゆうはなんですか。

- ⑤ 「じしんやおおあめ」がおきたときどうすればよいか、かぞくではなしをしていますか。
(4月～8月)
ア) よくしている イ) ときどきしている ウ) あまりしていない エ) していない
- ⑥ じしんがおきたとき、あつまるばしょや れんらくのしかたを かぞくできめていますか？
ア) きめている イ) きめていない
- ⑦ がっこうに行くとき・かえるときに、じしんがおきたら、あんぜんなばしょにひなんすることができますか。
ア) できる イ) まあまあできる ウ) あまりできない エ) できない
- ⑧ あなたのいえは、じしんにそなえて、たべもの・みずなどを よういしていますか。
ア) している イ) すこししている ウ) あまりしていない エ) していない

防災についてのアンケート（一の宮小学校 高学年） 9月

年 組 番 名前

★あてはまるものに○をつけてください。

- ① 地震や水害などの自然災害について、関心がありますか。
ア) とてもある イ) 少しある ウ) あまりない エ) ほとんどない
- ② 地震や水害などの自然災害に関するニュース・新聞などに関心もって見ますか。
ア) よく見る イ) ときどき見る ウ) あまり見ない エ) ほとんど見ない
- ③ 地震が起きた時に、自分の命を守る方法を知っていますか。
○建物の中にいるとき ア) 知っている イ) 知らない

知っているところたえた人に聞きます。じっさいに、どんなことをしますか。

- 外にいるとき ア) 知っている イ) 知らない

知っているところたえた人に聞きます。じっさいに、どんなことをしますか。

- ④ 自分のねている部屋は安全ですか。 ア) 安全 イ) 安全ではない

そう思う理由はなんですか。

- ⑤ 地震や水害等が起きたときの対応などについて、家族で話し合いをしていますか。
(4月～8月)

ア) よくしている イ) ときどきしている ウ) あまりしていない エ) していない

- ⑥ 地震があった場合の集合場所や連絡方法を家族で決めていますか？

ア) 決めている イ) 決めていない

- ⑦ 登下校のときに、地震が起きたら、安全な場所にひなんすることができますか。

ア) できる イ) まあまあできる ウ) あまりできない エ) できない

- ⑧ あなたの家は、地震に備えて食料・水などを用意していますか。

ア) している イ) 少ししている ウ) あまりしていない エ) していない



防犯についてのアンケート（-の宮小学校 低学年）9月

ねん くみ ばん なまえ

★あてはまるものに○をつけてください。

- ① 不審者（こわいひと）にあったらどうするかなど、いつもかんがえていますか。
ア) かんがえている イ) 少しかんがえている ウ) あまりかんがえていない
エ) かんがえていない

- ② 不審者（こわいひと）についてのニュースがあったら、すすんでみますか。
ア) よくみる イ) ときどきみる ウ) あまりみない エ) ほとんどみない

- ③ 不審者（こわいひと）にあってしまったときのために、なにかじゅんぴをしていますか。
ア) している イ) していない

「している」とこたえたひとにききます。どんなじゅんぴをしていますか。

- ④ ひとりでかえっているとき、不審者（こわいひと）にこえをかけられたら、どうすればよいかっていますか。

ア) している イ) しらない

「している」とこたえたひとにききます。じっさいに、どんなことをしますか。

- ⑤ 「いかのおすし」のそれぞれのいみをしていますか。

ア) している イ) すこししている ウ) あまりしらない エ) しらない

- ⑥ 不審者（こわいひと）にあったとき、どうすればよいかかぞくではなしをしていますか。
（4がつ～8がつ）

ア) よくしている イ) ときどきしている ウ) あまりしていない エ) していない

- ⑦ こわいめにあったことはありますか。（不審者、交通事故等）

ア) ある イ) ない

「ある」とこたえた人にききます。どんなことですか。

- ⑧ ひとりでかえっているときに、なにかふあんにおもうことはありますか。（不審者等）

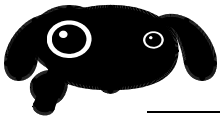
ア) ある イ) ない

「ある」とこたえた人にききます。どんなことですか。

- ⑨ 通学路（いえからがっこうまでのみち）はあんぜんだとおもいますか。

ア) あんぜんとおもう イ) あんぜんではないとおもう

そうおもいうりゆうはなんですか。



防犯についてのアンケート（-の宮小学校 高学年） 9月

年 組 番 名前 _____

★あてはまるものに○をつけてください。

- ① 不審者に会ったらどうするかなど、防犯について、関心がありますか。
ア) とてもある イ) 少しある ウ) あまりない エ) ほとんどない
- ② 不審者、防犯に関するニュース・新聞などに関心もって見ますか。
ア) よく見る イ) ときどき見る ウ) あまり見ない エ) ほとんど見ない
- ③ 不審者に会ってしまった時のために、何か準備をしていますか。
ア) している イ) してない
- ④ 一人で下校中、不審者に声をかけられた時に、自分の身を守る方法を知っていますか。
ア) 知っている イ) 知らない
- ⑤ 「いかのおすし」のそれぞれの意味を知っていますか。
ア) 知っている イ) 少し知っている ウ) あまり知らない エ) 知らない
- ⑥ 不審者に会ったときの対応などについて、家族で話し合いをしていますか。
(4月～8月)
ア) よくしている イ) ときどきしている ウ) あまりしていない エ) していない
- ⑦ こわいめにあったことはありますか。(不審者、交通事故等)
ア) ある イ) ない

しているとこたえた人に聞きます。どんな準備をしていますか。

「知っている」とこたえた人に聞きます。じっさいに、どんなことをしますか。

「ある」とこたえた人に聞きます。どんなことですか。

「ある」とこたえた人に聞きます。どんなことですか。

そう思う理由はなんですか。

自分の身を守るう！家族で会議

登下校時に災害や危険な目にあつた場合、どうすればよいかを家族で話し合ってください。

★学校から家までの地図（広域の場合は、危険なところを拡大してかく。）

地震のときあぶないところに●、防犯上あぶないところに■のしるしをつけてください。

目印となるものも書いてください。

★「学校に近ければ学校にもどる、家に近ければ家にもどる」を基本とします。

登下校中に災害や危険な目にあつたときのことを想定してご記入ください。

（下記には、場所を書いてください。）

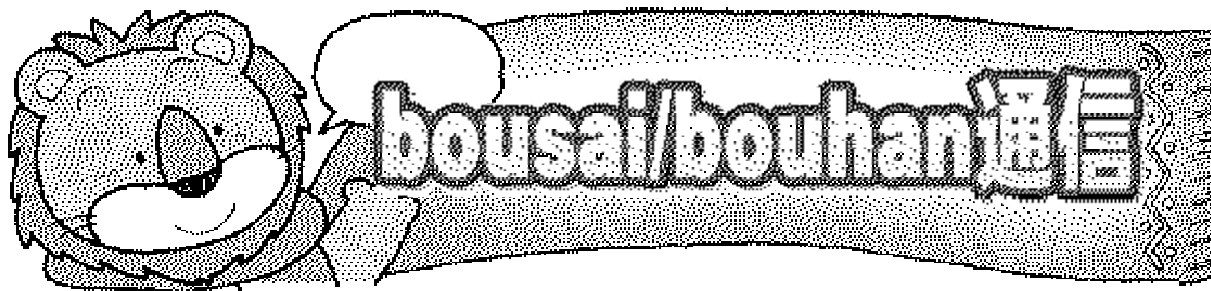
★地震等じしんとうが起きた時おきたとき、ひなんするところは、

★家の人いえとれんらくがとれないとき行くところいくは、

★こども110番ぼんの家など、かけこめる家いえは、

◎ぼうはんブザーてんけんの点検（○をつけてください。）

ぼうはんブザーは、鳴りますか？ はい いいえ



平成28年11月 一の宮小防災リーダー

防災ずきんをつきました！

放課後子ども教室でお世話になっている松下レイ子先生をゲストティーチャーにお迎えし、5年生対象に防災ずきん作りを行いました。地震や噴火による降灰等の災害では、頭を守ることがとても大事です。身を守るグッズがそばにあると便利です。

5年生は家庭科の学習で裁縫を行っていますので、なみぬいの練習にもちょうどよく、上手に作り上げていきました。

材料：タオル3枚、リボン

作り方：①タオル3枚を重ねる

②まちばりを五か所にうつ。

③横をなみぬいする。(両方)

④半分に折り、輪から半分だけ縫う。

⑤リボンをつけたらできあがり！



手縫いをするわけは、タオルをばらして包帯の代わりにしたり、何かをふいたりするためだそうです。タオルの間に新聞紙を入れておくと座布団代わりになるそうです。1つで何役にもなるこの防災ずきん！ご家庭にあるタオルで簡単にできますので、みなさんもぜひチャレンジしてみてくださいはいかがでしょうか。

不審者から身をまもるには・・・



先月、低学年を対象に防犯教室を行いました。そのとき、不審者役を警察の方にさせていただき、どのような対応をするのか、代表児童にやってもらいました。その時の様子を見られてのアドバイスは以下のとおりです。

◎知らない人と話すときには、きよりをおく。

◎早めに、その場からはなれる。

◎大人をよぶ。

(子ども達は、「ついていきません！」と大きな声で言っていたので、バッチリ！と思ったようですが、話している間、不審者役の方の真横にずっといたんです。)

このほか、身を守る方法として、防犯ブザーが有効です。

きちんと鳴るかどうか、ご家庭でチェックをお願いします。

